



平成25年6月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成24年11月9日

上場会社名 株式会社エーワン精密 上場取引所 大
 コード番号 6156 URL <http://www.a-one-seimitsu.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 林 哲也
 問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 林 哲也 (TEL) 042-363-1039
 四半期報告書提出予定日 平成24年11月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年6月期第1四半期の業績 (平成24年7月1日～平成24年9月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年6月期第1四半期	453	△0.3	104	△24.6	110	△22.2	66	△20.3
24年6月期第1四半期	454	△0.2	139	8.5	142	7.8	83	7.6
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
25年6月期第1四半期	44.60		—					
24年6月期第1四半期	55.93		—					

(注) 当社は平成24年7月1日付で普通株式1株につき普通株式100株の割合で、株式分割を行っておりますが、前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年6月期第1四半期	7,401	6,834	92.3
24年6月期	7,360	6,878	93.4

(参考) 自己資本 25年6月期第1四半期 6,834百万円 24年6月期 6,878百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年6月期	—	0.00	—	7,000.00	7,000.00
25年6月期	—	—	—	—	—
25年6月期(予想)	—	0.00	—	80.00	80.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

当社は平成24年7月1日付で普通株式1株につき普通株式100株の割合で、株式分割を行っております。そのため上記の平成25年6月期(予想)の配当金額は、当該株式分割後のものを記載しております。

3. 平成25年6月期の業績予想 (平成24年7月1日～平成25年6月30日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	1,083	18.0	335	41.9	342	33.6	213	150.0	142.06
通期	2,150	14.6	635	31.2	651	26.8	397	39.7	265.33

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

25年6月期1Q	1,500,000株	24年6月期	15,000株
25年6月期1Q	78株	24年6月期	—株
25年6月期1Q	1,499,999株	24年6月期1Q	15,000株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表レビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料2ページ「業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する定性的情報	2
(2) 財政状態に関する定性的情報	2
(3) 業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報(その他)に関する事項	3
(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 継続企業の前提に関する注記	7
(4) セグメント情報等	7
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する定性的情報

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、一般的に景気の頭を打ち踊り場の状態となりました。国内では裾野の広い自動車産業がエコカー補助金の終了で販売台数が減少に転じ、建設機械や工作機械、その他の業種も基本的に外需主導であり、世界的な経済成長の鈍化の影響を受けました。製造業においては標準品に関しては、安価で豊富な若年労働力を活用し新興国が全世界への製品供給基地となり、高付加価値・少量生産品はその他の地域で生産する国際的なすみ分けが定着してきております。そうした状況で南欧の財政危機から端を発した欧州問題が長期化し、米国も景気動向に不安定性があり消費の牽引力は弱く、新興国も欧米向けの輸出減少の影響が出て経済成長率が低下しております。また日中関係においては、9月に領土問題が発生し中国の景気減速と相俟って中国に進出している日系企業の生産活動が低下するなど影響が出ております。

このような状況のなかコレットチャック部門では、量産品の生産が一般的に減少傾向を示し機械稼働率が低下したため、主に量産部品加工に使用されるコレットチャックの受注もわずかながら低下しました。この結果、当セグメントの第1四半期累計期間の売上高は311,730千円(前年同期比2.5%減)、セグメント利益は148,159千円(前年同期比15.7%減)となりました。

切削工具部門では、量産部品加工と設備等の単品など幅広い分野で使用される工具であるため緩やかながら受注増加傾向にありましたが、当期の後半にかけて受注に頭打ち感が出てきました。この結果、当セグメントの第1四半期累計期間の売上高は128,898千円(前年同期比6.5%増)、セグメント利益は23,528千円(前年同期比19.3%減)となりました。

自動旋盤用カム部門では、量産品加工が堅調に推移しましたが国内企業のカム式自動旋盤自体の台数が限定されていることやその稼働率にばらつきがあることなどで、低位で横ばいとなりましたが9月に入り受注が減少しております。この結果、当セグメントの第1四半期累計期間の売上高は12,434千円(前年同期比7.9%減)、セグメント利益は5,073千円(前年同期比0.2%増)となりました。

これらの結果、当第1四半期累計期間の売上高は453,063千円(前年同期比0.3%減)、営業利益は104,998千円(前年同期比24.6%減)、経常利益は110,783千円(前年同期比22.2%減)、四半期純利益66,904千円(前年同期比20.3%減)となりました。

セグメント別の売上は、以下のとおりであります。(％表示は対前年同期比)

事業部門別	期別	第22期 第1四半期 (自平成23年7月1日 至平成23年9月30日)		第23期 第1四半期 (自平成24年7月1日 至平成24年9月30日)		第22期 (自平成23年7月1日 至平成24年6月30日)	
		百万円	%	百万円	%	百万円	%
コレットチャック部門		319	(95.4)	311	(97.5)	1307	(100.8)
切削工具部門		121	(117.4)	128	(106.5)	512	(114.1)
自動旋盤用カム部門		13	(78.9)	12	(92.1)	55	(91.3)
合計		454	(99.8)	453	(99.7)	1,876	(103.8)

(2) 財政状態に関する定性的情報

(1) 資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第1四半期会計期間末における流動資産の残高は、4,184,761千円(前事業年度末は4,104,685千円)となり80,076千円の増加となりました。これは、受取手形及び売掛金が32,281千円、その他が6,929千円減少しましたが、現金及び預金が111,260千円増加したこと等によるものであります。

また、当第1四半期会計期間末における固定資産の残高は、3,216,971千円(前事業年度末は3,255,633千円)となり38,661千円の減少となりました。これは、繰延税金資産が10,134千円増加しましたが、機械装置及び運搬具が29,461千円、建物及び構築物が10,147千円、投資有価証券が9,050千円減少したこと等によるものであります。

この結果、当第1四半期会計期間末における総資産は、7,401,733千円(前事業年度末は7,360,318千円)となりました。

(負債)

当第1四半期会計期間末における流動負債の残高は、219,684千円(前事業年度末は141,291千円)となり78,393千円の増加となりました。これは、役員賞与引当金が6,903千円、その他が9,347千円減少しましたが、未払金が53,053千円、未払法人税等が43,330千円増加したこと等によるものであります。

また、当第1四半期会計期間末における固定負債の残高は348,012千円(前事業年度末は340,816千円)となり7,196千円の増加となりました。これは、退職給付引当金が4,716千円、役員退職慰労引当金が2,480千円増加したことによるものであります。

この結果、当第1四半期会計期間末における負債合計は、567,696千円(前事業年度末は482,107千円)となりました。

(純資産)

当第1四半期会計期間末における純資産の残高は、6,834,036千円(前事業年度末は6,878,210千円)となり44,174千円の減少となりました。これは、配当金の支払い等により利益剰余金が38,095千円、その他有価証券評価差額金が5,882千円減少したこと等によるものであります。

(3) 業績予想に関する定性的情報

第2四半期累計期間及び通期の見通しにつきましては、平成24年8月10日発表の業績予想どおりとなる見込であります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

当社は、法人税法の改正に伴い、当第1四半期会計期間より、平成24年7月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

なお、これによる損益への影響は軽微であります。

3. 四半期財務諸表
(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年6月30日)	当第1四半期会計期間 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,453,719	3,564,979
受取手形及び売掛金	427,358	395,076
製品	5,515	4,890
原材料	31,100	31,550
仕掛品	168,522	169,598
繰延税金資産	15,721	21,299
その他	8,347	1,418
貸倒引当金	△5,601	△4,051
流動資産合計	4,104,685	4,184,761
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	676,829	666,681
機械装置及び運搬具(純額)	858,854	829,393
土地	319,337	319,337
その他(純額)	9,547	8,702
有形固定資産合計	1,864,569	1,824,114
無形固定資産		
投資その他の資産	4,152	4,918
投資有価証券	1,278,131	1,269,080
繰延税金資産	107,742	117,876
その他	4,431	4,449
貸倒引当金	△3,392	△3,467
投資その他の資産合計	1,386,912	1,387,939
固定資産合計	3,255,633	3,216,971
資産合計	7,360,318	7,401,733
負債の部		
流動負債		
買掛金	15,940	14,200
未払金	69,855	122,909
未払法人税等	14,657	57,987
役員賞与引当金	8,810	1,907
その他	32,027	22,679
流動負債合計	141,291	219,684
固定負債		
退職給付引当金	296,696	301,412
役員退職慰労引当金	44,120	46,600
固定負債合計	340,816	348,012
負債合計	482,107	567,696

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年6月30日)	当第1四半期会計期間 (平成24年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	292,500	292,500
資本剰余金	337,400	337,400
利益剰余金	6,378,582	6,340,487
自己株式	—	△196
株主資本合計	7,008,482	6,970,190
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△130,271	△136,154
評価・換算差額等合計	△130,271	△136,154
純資産合計	6,878,210	6,834,036
負債純資産合計	7,360,318	7,401,733

(2) 四半期損益計算書
第1四半期累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成23年7月1日 至平成23年9月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成24年7月1日 至平成24年9月30日)
売上高	454,330	453,063
売上原価	246,695	279,114
売上総利益	207,634	173,948
販売費及び一般管理費	68,415	68,949
営業利益	139,219	104,998
営業外収益		
受取利息	337	249
有価証券利息	245	126
受取配当金	2,253	2,006
貸倒引当金戻入額	202	1,383
その他	76	2,019
営業外収益合計	3,115	5,784
経常利益	142,335	110,783
特別損失		
有形固定資産売却損	—	66
有形固定資産除却損	9	56
特別損失合計	9	123
税引前四半期純利益	142,325	110,659
法人税、住民税及び事業税	205	56,300
法人税等調整額	58,220	△12,544
法人税等合計	58,425	43,755
四半期純利益	83,900	66,904

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

I. 前第1四半期累計期間(自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期損益計 算書計上額 (注)2
	コレット チェック部門	切削工具部門	自動旋盤用 カム部門	計		
売上高						
外部顧客への売上高	319,779	121,043	13,507	454,330	—	454,330
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	319,779	121,043	13,507	454,330	—	454,330
セグメント利益	175,841	29,142	5,062	210,046	△70,826	139,219

(注)1 セグメント利益の調整額は、製造部門共通費△2,411千円と主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II. 当第1四半期累計期間(自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期損益計 算書計上額 (注)2
	コレット チェック部門	切削工具部門	自動旋盤用 カム部門	計		
売上高						
外部顧客への売上高	311,730	128,898	12,434	453,063	—	453,063
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	311,730	128,898	12,434	453,063	—	453,063
セグメント利益	148,159	23,528	5,073	176,761	△71,762	104,998

(注)1 セグメント利益の調整額は、製造部門共通費△2,813千円と主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。